

犯罪の取り締まりや防犯対策で、地域の安全を守ることが私たちの使命。



三原健太郎さん (1992年生まれ)

出身
惟信高校
愛知学院大学 総合政策学部卒業

愛知県警察本部

名古屋市中区三の丸2-1-1
<https://www.pref.aichi.jp/police/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校を卒業→大学へ進学→警察官採用試験に合格
→警察学校に入校→交番勤務を経験→生活安全課に配属

——学生時代

「高校時代は、サッカー部に所属して毎日練習に励んでいました。スポーツを通して、体力だけでなく精神力も鍛えられたと思います。将来については明確に決めていなかったので、様々な分野を学べる愛知学院大学総合政策学部に進学を決めました」

大学時代について教えてください。

「自動車免許を取得して運転するようになると、想像以上に交通違反が多いことに気づきました。重大な事故を引き起こす可能性もあるのに、なぜ違反をするのか、悲惨なニュースを聞いても、自分が何もできない現状に悔しい気持ちが生まれ、警察官を志すようになりました。大学3年次から公務員試験対策講座を受講し、キャリアセンターでは面接の練習や試験対策などを親身に相談に乗っていただきました。特に歴代合格者の例など、経験に基づいた具体的なアドバイスは試験に役立ちました。警視庁と愛知県警察の両方を受験し合格しましたが、自分の大切な人たちが住む地元を守りたいという気持ちがあり、最終的には愛知県警察に入ることを決めました」

——仕事について

「警察学校には6か月の間入校し、警察官に必要な法律の知識や剣道・柔道・逮捕術等を学び、基礎体力づくりも頑張りました。警察学校を卒業し、交番勤務を経験した後は、自動車警ら隊、特別警戒隊と、様々な部署を経て、現在は中警察署生活安



全課で勤務しています」

現在の仕事内容を教えてください。

「DVやストーカー被害、性犯罪をはじめとした、日々身近なところで発生している犯罪の取締りや防犯対策など、仕事内容は多岐に渡ります。以前特別警戒隊で勤務していた際に、被災地に派遣されて救助活動をしたことがあります。過酷な現場に心身ともに疲弊しましたが、そのときに先輩から、『どんな状況でもご遺族の前で感情を出さないように』と教わりました。そのため、日々、警察官として働く姿を県民の方に誇れるかを意識して業務にあたっています」

——やりがい

「やはり、捜査をして犯人を捕まえたときに一番やりがいを感じます。毎回現行犯で逮捕できるわけではないため、逃げた犯人をそのままにしておくという結果として治安が悪化してしまう危険もあります。そうならないよう、警察が捜査をして犯罪者を取締まり、地域のみなさんが安心して暮らせる安全な世の中にするのが私たちの使命だと考えています」

——メッセージ

「警察官を志している方は、まず警察官採用試験に合格する必要があります。その後、大卒者は6か月間、高卒者は10か月間、警察学校で基礎を学んでから各所属に配属されます。警察官の仕事は、責任が重く、時には身体的にも精神的にも大変なことがあります。でも私は、生まれ変わっても警察官になりたいと思うくらい、この仕事にやりがいを感じています。求める人物像としては、正義感が強い方と一緒に働きたいです。高校時代は、今できることを思いっきりやり切ってください。ありがとうございます。」



自分探

18歳 サッカー部に所属し、スポーツを通して精神的な強さを学ぶ。

22歳 愛知学院大学に進学し、公務員試験対策講座を受講。

29歳 中警察署の生活安全課にて、日々犯罪の取締りや防犯対策に励む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

